

あら こうずいしんすいそうていくいき

「新たな洪水浸水想定区域」

洪水浸水想定区域とは、河川が氾濫した時に浸水する恐れがある区域と浸水深を表したもので、洪水ハザードマップ(洪水避難地図)の基本情報となります。近年、多発している豪雨災害へ対応するため、平成27年に水防法が改正され、河川氾濫の前提となる降雨量をこれまでの30年～100年に1回程度だったものから、**1,000年に1回程度**発生する想定最大規模降雨に対応した洪水ハザードマップへ改訂しました。また、市内全域の洪水浸水想定区域と避難場所が確認できるように一つの冊子にまとめました。

注意

水害時には、予想を超えた浸水範囲や水深となることがあります。本誌ハザードマップ記載以外の場所でも洪水が起こる可能性があるため、中小河川・堰・側溝などにも注意を払いながら早めの避難を心がけましょう。

いま すいがい お

「今や水害は、いつでも起きてもおかしくない!!」

山形市内を流れる主要な河川では、堤防の強化や川の断面を大きくするなどの改修が現在も行われており、以前よりも確実に洪水対策は進んでいます。

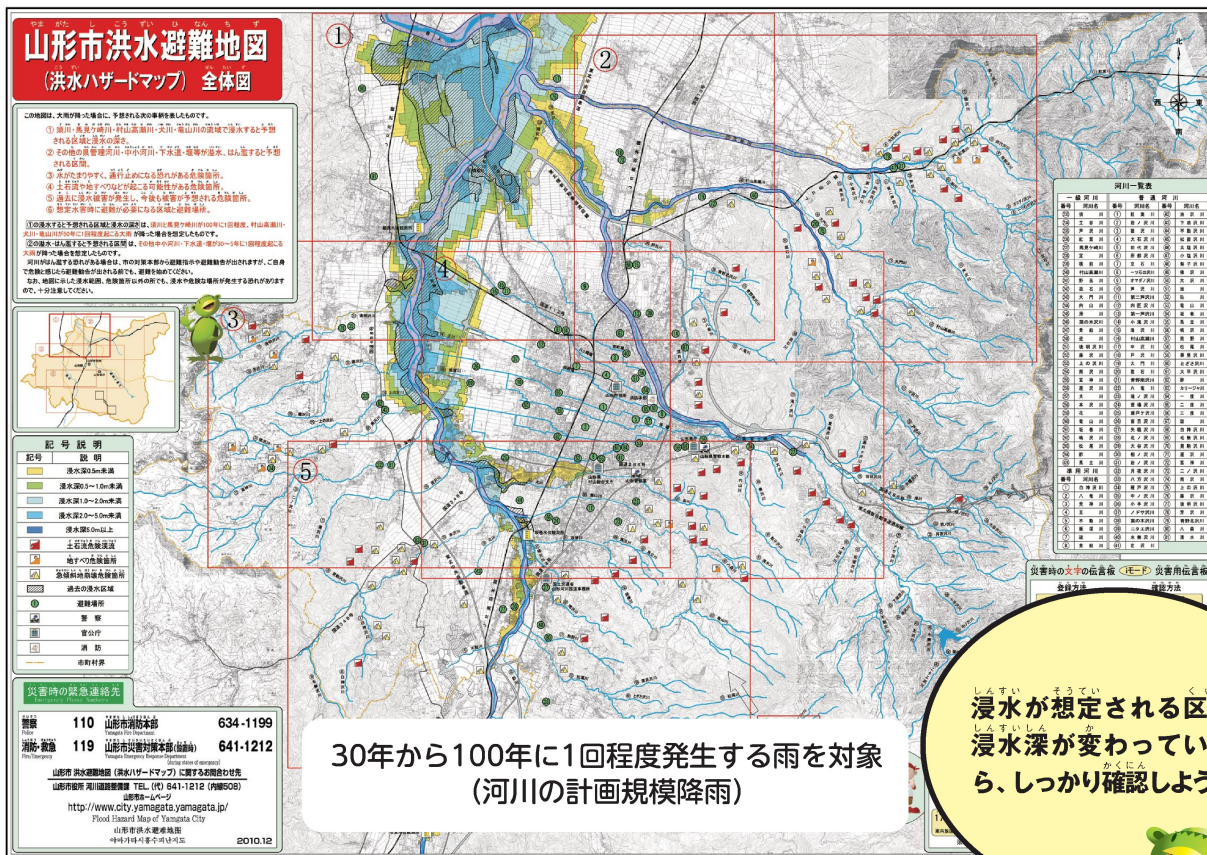
一方で、近年、想定を超える大雨や局地的豪雨により、全国各地で毎年のように水害が発生しており、私たちの身近なところでも、洪水の危険性が高まっています。

災害時には、自分や家族に身の危険が迫る前に「逃げる」ことが重要です。ご自分の状況にあった避難行動を確認し、早めの避難を心がけてください。



平成19年9月7日
馬見ヶ崎川の増水により、崩壊した道路

こうずいしんすいそうていくいき
これまでの洪水浸水想定区域



あら こうずいしんすいそうていくいき
新たな洪水浸水想定区域

